等々。

第三期微毒トシテハ口腔ガ他ノ器官ニ先ツテ護謨腫ヲ生ズル。時期ハ一定セズ感染後二年ノコトアリ、一般的ニハ八乃至十五年デアル。好發部位ハ硬軟口蓋及舌ニシテ他ハ稀デアル。

結論トシテハ微毒ハ適當ノ時機ニ治療スレバ治癒シ得ルモノデアリ、齒科醫ハ早期ニ發見スル機會ヲ屢々有スルモノデアル。故ニ口腔微毒ノ症狀ニ通曉シテ早期ニ發見コレヲ専門醫ノ手ニ委ナルコトハ患者ノタメノミナラズ周圍ヘノ傳染ヲ防グ上カラシテモ必要ナコトデアル。

齒牙咬合ニ關係アル歐氏管ニ關スル文獻

ノ觀察

(A review of the literature on the Eustachian tube, with data indicating a relation to the dental occlusion). Tom

Smith. The Journal of the Amer. Dent. Assoc. XII, Nr.

6 1925.

歐氏管ハ中耳ト咽喉トノ間ノ氣壓ヲ均等ナラシムル機能ヲ有シテ居ル。此處ニ障礙ガ起ルト重聽ガ起ツテ來ルガ、之ハ歐氏管ノ障礙ガアルト其ノ結果内耳竝ニ中耳ニ障礙ヲ惹起シ得ルガ爲メデアル。

被覆咬合(沈下咬合)ノ場合ハ舌ハ後方ニ退キ、咽頭腔ハ狭小セ

ラレ、歐氏管ノ開口ハ壓セラレル。著者ハ斯ル場合ニ於テモ重聽ヲ惹起シ得ルモノト考ヘ、重聽アル患者ニシテ被覆咬合アルモノニ義齒ニ依ル咬合ヲ高メル方法ニヨツテ聽覺ヲ或ル點マデ恢復シ得タト報告シテ居ル。

齒科醫學ヨリ觀タル小兒ノ保健並ニ栄養

ニ就テ

(Child welfare and diet from a dental standpoint) S.

Lever. The Australian dental Summary VI, Nr. 7 1925.

著者ノ意見ニ依ルト、齒科竝ニ他科ノ見解ヨリスレバ合理的食物ガ小兒疾患ニ對スル最モ自然デ且ツ最良ノ豫防法デアル。其故ニメイヨー氏ガ「次ノ時代ノ豫防醫學ハ齒科ヨリ進歩セシメラレルダラウ」ト述ベテ居ル言ニ從ツテ吾人ハ一層ノ努力ヲ此ノ方向ニ進メナケレバナラヌ。公衆ヲシテ系統的ニ正シキ栄養ニ就テ學バシメルコトガ何ヨリモ必要デアル。豫防ハ母親ノ教育ヨリ始メ子供ヲシテ最初カラ丈夫ナル齒牙ヲ有セシメル様ニシ、一旦弱キ齒牙ヲ生ゼシメタナラバ再ビコレヲ丈夫ナル健康ナル齒牙タラシメルコトハ如何ニ口腔衛生ヲ嚴重ニヒシムルトモ不可能デアルコトヲ知ラシメルニアルト説キ起シテ、食物ノ事ヲ詳細ニ記述シテ居ル。